大倉工業株式会社 2024年第２四半期（中間期）決算説明会 質疑応答

Q. 合成樹脂事業を中心とした、原材料コスト等の製品価格への転嫁について進捗状況や見込みを教えてほしい。
A. 価格交渉は７月時点で当社目標に対して５割程度が決着しております。未決着分については10～11月までの決着を予定しております。それでも当社目標に対して８割程度の水準にとどまると想定しており、それを踏まえた今期の業績予想数値としております。

Q. 製品価格修正により数億円の増益を見込んでいるようですが、コスト増分も踏まえると年間ではどのような営業利益予想か教えてほしい。
A. 上期の営業利益には、価格修正による効果は反映できていません。下期に見込んでいる増益要因としては、価格修正の効果に加えて、今期の重点取組みで紹介したプロセス機能材料の増販、パーソナルケア関連や農業用マルチフィルムの新製品の売上などがあります。一方で、合成樹脂事業で進めている構造改革の一環として、年間売上高が５億円以上ある製品を対象としたものもあります。増益要因に加え、これら不採算製品の減益分も加味したうえで、修正後の業績予想数値としております。

Q. 2024年２月開催の決算説明会において、タブフィルムの能力増強に向けた設備投資を行っていると説明がありましたが、進捗状況を教えてほしい。
A. 足元でのタブフィルムの需要は低調ですが、今後の電池の大容量化なども踏まえ、将来的な需要は増加すると見込んでおります。能力増強に向けた設備投資は予定通り進めており、年内での工事完了を見込んでおります。

Q. 新工場での広幅光学フィルム製造装置（以下：G2ライン）では、第２四半期を中心に影響が出ていると思われるが、機会損失を含め、上期にどれくらいの影響が出ていますか？また、下期の利益貢献をどのくらい想定していますか？
A. 上期におけるG2ラインの機会損失は、営業利益ベースでは、当初計画よりも数億円レベルのマイナス影響となっております。マイナス影響の一部は、第３四半期にも影響しますが、９月以降に量産体制を構築することにより、上期分を補う水準までは厳しいですが、機会損失はなくなると見込んでおります。

Q. 新規材料事業の営業利益について上期より下期が高い水準となっていますが、下期において、3Qと4Qで利益の偏りはありますか？
A. G2ラインの本格稼働により、全体では3Qの営業利益に比べ4Qの営業利益が増えると想定としております。

Q. 新規材料事業では、G2ライン本格稼働後の4Qベースでの利益水準が来年度も継続した場合、来年度の新規材料事業の営業利益は30億円以上も見込めますか？
A. 4Qの営業利益水準はG2ラインの本格稼働を織り込んでおりますが、そこまで利益額が増える想定ではありません。中小型関連や大型関連でのアクリル以外の製品についても4Qは堅調に推移すると想定しておりますが、来年度以降の外部環境は不透明な部分もありますので、これら外部環境の先行きについて精査し、来年度の利益水準を今後想定して参ります。

Q. 液晶マーケットの先行きに懸念との説明がありましたが、今の状況において G2ラインを 8 割稼働させるということに問題はないでしょうか？
A. 大型液晶パネル向け光学フィルム製造装置は、G2 ライン以外に、GⅠラインとMCⅠラインの 2 ラインあり、G2 ライン以外の 2 ラインは、現在フル稼働が続いております。今後の市況が不透明ではありますが、広幅の 65 インチ以上の用途においては、当社の納入先では変わらず稼働していることもあり、G2 ラインの稼働には影響がないと考えております。

Q. R＆Dセンターでの取組内容と進捗状況、事業化の時期等について教えてほしい。
A. 情報電子分野では、高周波基板用フィルムと高機能ディスプレイ材料に注力しており、高周波基板用フィルムについては、2026 年に販売されるスマートフォンでの採用を目指しておりますが、高機能ディスプレイ材料についても、採用されるモデルは決まっておりません。 環境・エネルギー分野では、ケミカルリサイクルとエネルギー関連（ペロブスカイト太陽電池）に注力しております。ケミカルリサイクルについては、様々なブランドオーナーとの仕組み作りをしておりますが、最終的な採用時期は未定です。ペロブスカイト太陽電池については、協業企業との協議段階であり、設備投資の判断は未定で採用時期についてもまだ決まっておりません。 モビリティ関連では、モーター用に注力しており、新たに来年度の採用を見込んでおりますが、採用される車種・樹脂は決まっておりません。 ライフサイエンス分野でのシングルユースバッグについては、新製品の開発段階にあります。

Q. R＆Dセンターの注力分野のうち、事業化となった場合、規模が大きくなりそうな分野について教えてほしい。
A. ライフサイエンス分野は事業規模が大きいと考えています。今回紹介した細胞培養用のシングルユースバッグのほか、手術支援ロボットのドレープなど様々な製品開発を行っており、医療・医薬分野全体で最終的に 10 億円以上の売上高を目指したいと考えております。

Q. シングルユースバッグは海外向けか教えてほしい。
A. 現在は2Dバッグを国内向けに販売しておりますが、今後は海外展開を行っていきたいと考えております。

Q. 2024 年 2 月開催の決算説明会で説明があった EV モーター用の接着剤について、事業の規模感や設備投資の状況について教えてほしい。
A. モーター関連の接着剤については、海外ユーザー向けの量産化で認定取得できたことから、来年以降の実績化を見込んでおります。EVのバッテリー関連について、採用になれば現在の生産能力を上回る需要が想定されることから、能力増強について検討して参ります。

Q. 今年で最終年度を迎える中期経営計画（2024）では、事業ポートフォリオの高度化を掲げていたが、施策や成長投資の実行状況、それに対する評価について教えてほしい。
A. 新規材料事業のG2ラインへの投資は中期経営計画（2024）の柱であったが、設備起因による品質トラブルにより、遅れが生じております。合成樹脂事業については、7 種 7 層機を活用した新製品の上市を予定していたものの、計画通りに進まなかった案件もあります。

Q. 各事業における次期中期経営計画での注力テーマについて教えてほしい。
A. 合成樹脂事業では、プロセス機能材の構造改革、自動車関連製品への投資を検討しております。現在、EV関連の需要は低調に推移しておりますが、将来的に需要が回復すると考えております。新規材料事業も含め、自動車関連への投資を推進し、次期中期経営計画での一つの新たな柱にしたいと考えております。新規材料事業では、G2ラインが立ち上がったばかりではありますが、世界的にはテレビの大型化が進んでおり、更なる広幅製品の需要が見込まれる場合には、追加投資についても判断していきたいと考えております。建材事業では、四国地域材・集成材事業について、総額 70 億円の投資を進めており 2026 年の稼働を予定しております。新たな事業として、事業領域の拡大を目指し取り組んで参ります。

Q. 資本効率の改善に向けた施策として、政策保有株式の縮減に伴う自己株式の売出し、自己株式の取得を実施していますが、一方で、資産に占める現預金の割合が 9%と現預金が多い印象を持っています。キャッシュポジションに関する考え方について教えてほしい。
A. 次期中期経営計画は現在策定中ですが、Next10(2030)の達成に向けて、現中期経営計画を上回る成長・戦略投資を検討しております。これらの設備投資には、資金が必要であり、短期的に見ると現預金はやや高い水準にありますが、設備投資を実施することにより、今後解消されるため、現預金は適切な水準になると考えております。

以 上